時事問題解説NO.91

戦後日本政治年表

小山雅夫

低空飛行を続ける内閣の支持率。連合時代の掛け声の中で，農村を基盤に戦後日本を支えて来た保守体制は大きく揺れている。敗戦・占領下の多党化時代から保守合同へ，自社対立時代を経て自民党の絶対多数と高度成長，そして再び多党化の現在に至る30年史をデータベースで描く。

KYOIKUSHA

入門新書

小山　雅夫　（こやま・まさお）

昭和13年長野県生まれ
昭和39年日本大学大学院修了
現在，歴史に学ぶ総合研究所所長

戦後日本政治年表／時事問題解説・91

著　者――小山　雅夫
発行者――高森　圭介
発行所――株式会社　教　育　社
販　売――教育社出版サービス株式会社
〒102 東京都千代田区富士見 2-11-10 丸十ビル
電話 (03) 264－5477 (代)

(分)1231 (製)71391 (出)1498　© 教育社 1978年
落丁本・乱丁本はお取り替えいたします。

戦後日本政治年表

目　次

第1部　戦後の日本政治……11
1　政党再編成期に入る……13
2　衆議院選挙にみる政党の変遷……18
3　政治も「長寿型」へ……30
4　政権末期型に入った福田内閣……32
5　「支持政党なし」絶対多数に……34
6　政治家としての活躍は五〇代後半から……36
7　名実共に政界「長寿国」……38
8　票田、保守は農村・革新は都市……40
9　当選率の高い五〇歳代……42

试读结束，需要全本PDF请购买 www.erton

10　アメリカは共和党・民主党が交互に政権担当……44

第2部　政治史年表……47

1　日本政治年表……48

昭和二十　年（一九四五）……48
昭和二十一年（一九四六）……53
昭和二十二年（一九四七）……56
昭和二十三年（一九四八）……60
昭和二十四年（一九四九）……62
昭和二十五年（一九五〇）……65
昭和二十六年（一九五一）……67
昭和二十七年（一九五二）……70

昭和二十八年（一九五三）……73
昭和二十九年（一九五四）……75
昭和三十　年（一九五五）……78
昭和三十一年（一九五六）……80
昭和三十二年（一九五七）……82
昭和三十三年（一九五八）……83
昭和三十四年（一九五九）……85
昭和三十五年（一九六〇）……87
昭和三十六年（一九六一）……90
昭和三十七年（一九六二）……92
昭和三十八年（一九六三）……93
昭和三十九年（一九六四）……95
昭和四十　年（一九六五）……96

昭和四十一年（一九六六）……98
昭和四十二年（一九六七）……100
昭和四十三年（一九六八）……103
昭和四十四年（一九六九）……105
昭和四十五年（一九七〇）……107
昭和四十六年（一九七一）……109
昭和四十七年（一九七二）……112
昭和四十八年（一九七三）……115
昭和四十九年（一九七四）……117
昭和五十　年（一九七五）……121
昭和五十一年（一九七六）……123
昭和五十二年（一九七七）……126
昭和五十三年（一九七八）……130

2　世界政治年表……131
一九四五（昭和二十）年……131
一九四六（昭和二十一）年……133
一九四七（昭和二十二）年……135
一九四八（昭和二十三）年……136
一九四九（昭和二十四）年……139
一九五〇（昭和二十五）年……141
一九五一（昭和二十六）年……142
一九五二（昭和二十七）年……143
一九五三（昭和二十八）年……144
一九五四（昭和二十九）年……146
一九五五（昭和三十）年……147

一九五六（昭和三十一）年……149
一九五七（昭和三十二）年……150
一九五八（昭和三十三）年……151
一九五九（昭和三十四）年……152
一九六〇（昭和三十五）年……153
一九六一（昭和三十六）年……155
一九六二（昭和三十七）年……156
一九六三（昭和三十八）年……157
一九六四（昭和三十九）年……158
一九六五（昭和四十　）年……160
一九六六（昭和四十一）年……161
一九六七（昭和四十二）年……162
一九六八（昭和四十三）年……163

一九六九（昭和四十四）年……164
一九七〇（昭和四十五）年……165
一九七一（昭和四十六）年……166
一九七二（昭和四十七）年……167
一九七三（昭和四十八）年……168
一九七四（昭和四十九）年……170
一九七五（昭和五十　）年……171
一九七六（昭和五十一）年……172
一九七七（昭和五十二）年……174
一九七八（昭和五十三）年……179
用語解説……181

试读结束，需要全本PDF请购买 www.erton

参考文献……185

第1部　戦後の日本政治

1　政党再編成期に入る

戦後における政党史の流れは三つの区分で見ることができる。第一期は昭和二十年八月三十日、連合軍総司令官マッカーサーが厚木飛行場に到着、ＧＨＱ活動が本格的に始動してから、二十六年四月十一日、マッカーサーが罷免され、後任にリッジウェイ中将が着任するまでの約六年間で、混乱と流動の時期である。

保守系については旧政友会系の鳩山一郎、吉田茂を中心とする日本自由党（総裁・鳩山一郎）が二十年十一月九日に結成され、旧民政党系・旧政友会中島系を中心とする日本進歩党（幹事長・鶴見祐輔）が十一月十六日に結成大会を開き、十二月十八日、総裁に町田忠治を決定した。

一方、革新系については日本社会党が十一月二日（書記長・片山哲）に結成され、

日本共産党も十二月一日再建、戦後政治の混乱期における多党時代を現出した。しかし、二十三年ごろから始まった米ソの〝冷戦〟という国際情勢を反映して、GHQの占領方針が次第に「日本を反共防壁化」する方向に変化していった。その路線に沿って保守・革新はGHQの枠にはめられていった時期でもあった。

第二期は、保守系が自由民主党に統一（昭和三十年十一月十五日）され、革新系が日本社会党に再統一（三十年十月十三日）されたころから、新自由クラブ、社会市民連合の結成に至るまでの約二二年にわたる保革二大政党時代である。

この時期日本経済は戦後の復興期を経て、高度経済成長に移行し、日本の経済と国民の生活は政治の力と指導性をそれほど必要としていなかった。「政経分離」が叫ばれ、政治は政治屋がするものといった風潮があって、経済が独走した時代である。

第三期は、一党独裁の自民党から離党した議員が新自由クラブを結成（昭和五十一年六月二十五日、代表・河野洋平）し、次いで江田三郎元副委員長が社会党を離党（五十二年三月二十六日）し「社会市民連合」の結成を表明するに及んで、保革二大政党時代は終わりを告げ、保革伯仲・小党分立時代に突入した時期である。

国際通貨危機、石油危機を境にして、国際政治の舞台ではアメリカ合衆国が後退し、その主導力が低下した。国内にあっては不況に助けられたとはいえ自民党の退潮傾向は明らかであり、国内外ともに政治の転換期にさしかかっている。

试读结束，需要全本PDF请购买 www.erton